

海外短信



ーインドネシアー

助け合い精神が色濃いインドネシア

～ 日本ペイント㈱ ～



発展するインドネシア

日本ペイント株式会社からインドネシア関連会社 NIPSEA PAINT&CHEMICALS に赴任 1 年の経験の中で、インドネシア現代事情を述べさせていただきます。私のお話するのは私の身の回りに多く、下町に住んでいるインドネシア人であり、人口の 50% を占める中国人に関してはよく存じませんので、そのところはご了承ください。

弊社はジャカルタ北部 Ancol(アンチョール)という地域にあり、ジャカルタのデイズニーランド(?)と呼ばれている Taman Ancol(アンチョール公園、アンチョール遊園地)のすぐ近くに 있습니다。塗料会社としてはインドネシアでは一番大きい会社です。



NIPSEA PAINT&CHEMICALS のメンバー

《インドネシアの赴任前の印象》

皆さんはインドネシアについてどんな印象をお持ちでしょうか?

赴任前のオリエンテーションとインターネット情報からの私の印象は、たとえば、
1;発展途上国、2;東南アジア特有の顔つき、3;インターネット環境が非常に悪い
4;害虫が多く、病気も多い、5;とにかく暑い、6;イスラム教で文化になじめない、
7;食べ物になじめない、
などなどインドネシアという国の印象が薄い上に情報は負のものばかりでした。

《生活》

赴任前は、トイレの紙もなく、服も食料も馴染めないと思い、たくさん持参しましたが、日本の生活と比較して困ることはありませんでした。

ジャカルタだけが特別なのでしょうか、とにかく発展途上国という印象はあまり当たっていない様に思います。

インターネットも十分ですし、特にHP(ハーペー、携帯電話)がよく普及しており、この人たちはSMS、Messenger、FBなどを使ってよく友達とおしゃべりしたり、Bercanda(ブルチャンダ=冗談)したりしています。

《環境》

一年中暖かいここでは、やはり、ねずみ、ゴキブリ、蚊は多いです。

ねずみと台所でにらめっこしたこともあり、蚊などは毎日会社で団扇で何匹も打ち落としながら格闘しています。

《人》

この人たちの私の印象は”やさしく”、”陽気”という言葉になるでしょうか。
顔つきも日本人に馴染みやすく、私の幼馴染にソックリな顔の人を良く見かけて、”あれ、ノンちゃん?”、“あれ、亮ちゃん?”などと思わず声をかけたくなる様に思うほどです。

《助け合い精神=Saling membantu(サリン ムンバンチュ)》

私が一番好きなインドネシアの文化は、日本でいう下町の助け合い精神が色濃く残っているところです。例を挙げますと、いつも通っている住宅街で結婚式があり、家の前の狭い道一杯に椅子を並べて通れなくなっていました。手前で曲がる指示に従うとその道が輪を掛けて狭いので不安に思いながら進んで行ったところ、不自然なところに地元の人らしき人がポツポツと居るのです。急に彼らが **Stop** のサインをするのでおかしいな?と置いていたら、彼らはすれ違い出来るように誘導するためにそうしていたのです。頼まれなくても、そのような行動を自然にすると聞きました。

今この国は世界で人口第4位の国として注目を浴びているようです。

30年前の日本の活気があると年配の方は仰いますが、最近の経済の発展は目覚ましいものがある様です。この国がより発展することを期待しています。